

リボン運動

リボン		画像	説明等
パープルリボン	(暴力根絶のシンボルマーク)	 Purple Ribbon	DVや虐待など個人間における暴力をなくす運動のシンボルマークで、1994年にアメリカで始まりました。インターナショナル・パープルリボン・プロジェクトとして世界40カ国以上で展開されています。 ※女性に対する暴力をなくす運動（11月12日～25日）
ピンクリボン	(乳がんの早期発見・早期診断・早期治療の大切さを伝えるシンボルマーク)	 Pink Ribbon	1980年代にアメリカで始まったピンクリボン運動は、世界に広まり、日本でも2000年頃から専門医や外資系企業を中心に活動が始まり、2003年には毎年10月にピンクリボンフェスティバルが開催されています。
ホワイトリボン	(『安全な母性』を推進するシンボルマーク)	 White Ribbon	開発途上国の妊産婦と赤ちゃんの命と健康を守る運動のシンボルマークで、1999年にホワイトリボン・アライアンスという国際的なネットワークが作られ、世界110カ国から622の国際機関、研究所、NGOなどの団体が参加して活動しています。
オレンジリボン	(児童虐待防止のシンボルマーク)		児童虐待事件をきっかけに、平成17年に栃木県小山市の市民団体が始めた運動で、「子どもの虐待の現状を広く知らせ、子どもの虐待を防止し、虐待を受けた子どもが幸福になれるように」というメッセージリボンです。 ※児童虐待推進月間（11月）
イエローリボン	(障害のある人々の社会参加を推進していくためのシンボルマーク)		障害のある人々の、その人らしい自立と社会参加を目指す運動のシンボルマークです。すべての人がともに生きる社会の実現をめざし、障害者権利条約の内容を広く普及し、日本での条約批准をめざしています。 ※障害者週間（12月3日～9日）
レッドリボン	(エイズに対する理解と支援のシンボルマーク)		1980年代終わりごろ、エイズが社会的な問題となってきたアメリカニューヨークで始まった運動で、「エイズに関して偏見をもっていない、エイズとともに生きる人々を差別しない」というメッセージリボンです。 ※世界エイズデー（12月1日）
グリーンリボン	(移植医療のシンボルマーク)		1980年代にアメリカで始まった世界的な移植医療普及のためのシンボルマークです。日本でも臓器移植への理解と臓器提供意思表示カードの普及の促進のための活動が行われています。 ※臓器移植普及月間（10月）
ブルーリボン	(拉致被害者の救出を求めるシンボルマーク)		NGO「北朝鮮に拉致された日本人を救出する市民ネットワーク」の提案で始まった、「北朝鮮による拉致被害者の生存と救出を信じる」という意思表示のためのリボンです。 ※北朝鮮人権侵害問題啓発週間（12月10日～16日）
イエローグリーンリボン	(受動喫煙防止のシンボルマーク)		「たばこの煙を吸いたくない」という気持ちをさりげなく周りの人に伝えるために、長崎県佐世保市民のアイデアで誕生したシンボルマークです。
ゴールドリボン	(小児がんへの理解と支援のシンボルマーク)		アメリカから始まったゴールドリボン運動は、子どもたちは金のように貴重な宝物であり、小児がんの子どもたちに必要な医療やケア、研究に輝かしい光を当てるというメッセージが込められています。 ※世界小児がん啓発月間（9月）